

情報ビジネス科 2025年度 第1回 教育課程編成委員会 議事録

- 1) 日 時 2025年9月24日(水) 10時00分～11時00分
- 2) 場 所 YIC Studio 2階 応接室、オンライン
- 3) 出席者 阿部 誉久様 (山口商工会議所 広域ビジネスサポートセンター長)
伊藤 恵一様 (株式会社きらら 代表取締役)
小田 政江 (副校長)
森野 茂弘 (教務課長)
豊田 菜摘 (教務課長補佐)
三船 龍 (事務長補佐)
赤木 康二 (情報ビジネス科 教務係長・学科長)
濱田 和生 (教務事務)
- 4) 次 第
 - 副校長挨拶
 - 委員紹介
 - 今年度の取組みについて (別紙1参照)
 - (1) 在籍状況
 - (2) 前回委員会での議題・問題点についての経過報告
 - (3) 検定目標
 - (4) 就職内定状況
 - (5) PBL授業の取組み
 - (6) 2025年度カリキュラムについて(2024年度より)(別紙2参照)
 - (7) 理系転換について(別紙3参照)
 - (8) その他の取組み

5)議事録

●副校長挨拶

本日はオンラインでの参加となります。

本日は情報ビジネス科の教育課程編成委員会へご参加いただきまして、皆様、誠にありがとうございます。学生のためになる教育過程を組めればと思いますので、皆様から忌憚なきご意見をいただければと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

●今年度の取り組みについて説明

(1) 在籍状況について説明

2年生が10名、1年生が16名で、計26名が在籍。

(2) 前回委員会での議題、問題点について説明

学生の実践的なスキルや非認知能力の育成に関する課題が提起。

①お金に関する授業の強化

お金に関する実践的な学習の必要性が議題。

内容：2年生の授業で経営シミュレーションを実施具体的には、カードを用いた仕入れや販売を行い、最終的な利益を算出するシミュレーションゲームを考案。1年生への体験会を実施高校生に伝わるように言葉を選定するというについて説明。

評価：学生からは、ゲーム感覚で楽しみながら取り組めたという感想が得られた。

②AIの業務活用に関するカリキュラム導入

AIを業務に活用する知識を企業関係者から情報収集し、カリキュラムに組込む事が議題。

内容：現在、AIをカリキュラムに取り入れる方向で進めているが、体系的なAIカリキュラムの構築が困難であるため、外部のカリキュラム提供企業からの導入を検討している段階。

③スピーチ時間の設定を通じたコミュニケーション能力の育成

朝礼などでスピーチの時間を取り入れ、学生の承認欲求を満たし、コミュニケーション能力を高める取り組みが議題。

内容：朝礼ではなく、週1回の「ソーシャルスキル」という授業を設定。この授業の中で、自己紹介や発表を通じたコミュニケーション能力向上を目指す、非認知的な取り組みを行っている。

(3) 検定目標について説明

ITパスポート試験の目標は50%と設定しているが、2年生は現時点では受験者0名。まずはJ検（3級、2級）の受験を段階的に行い、ITパスポート試験へのステップアップを目指す（J検目標80%以上）

検定名	目標	備考
ITパスポート試験	50%	J検（10月3級、1月2級）合格者を対象に今後臨んでもらう
エクセル（表計算技能認定試験2級）	80%以上	昨年度の不振から挽回を目指し、来週試験実施予定
アクセス（ビジネスデータベース3級/2級）	-	10月に3級から受験させ、後期に2級取得を目指す
全経簿記3級	80%以上	13名が受験し12名が合格しており、学生のモチベーションは比較的高い

(4) 就職内定状況について説明

2年生10名中、内定者は5名。残り5名は受験中であり、一部の学生は成績やコミュニケーションスキルが不足しており、苦戦しているのが現状。

(5) PBL授業の取り組みについて説明

毎年、課題解決型実践学習（PBL）を実施

- ・1年生：後期で株式会社TRANSANと連携、カードゲーム制作を実施採用された企画は商品化される。
- ・2年生：山口県中小企業同友会連携事業という形で株式会社美東電子（きのこ販売のネット販売、インスタ広告の分析・提案）と株式会社中央寝装（寝具の告知方法検討）と連携。

(6) 2025年度カリキュラムについて

- ・1年生について：別紙2をもとに説明
- ・2年生について：別紙2をもとに説明

(7) 理系転換について

次年度入学生に向けて「情報デザイン科」(ビジネス共創 DX 科として当初動いていた)を新設し、既存のメディアデザイン科と統合した2コース制(イノベーションコース、メディアデザインコース)とする。定員は40名。イノベーションコースは、文系と理系を組み合わせる「文理融合」をコンセプトとし、DXをベースとしたカリキュラムを構築。

分野	ディプロマポリシー(卒業目標)	主な科目例
情報分野	最新デジタル技術、AI、ノーコードを活用し、職場の効率化に取り組める	ノーコード実習、データ基盤構築、生成AI活用、デジタルリテラシー
マーケティング分野	地域観光資源や統計データを分析し、データを通して課題の洞察ができる	統計データ分析、デジタルマーケティング、アントレプレナーシップ入門
マネジメント分野	企業や地域の課題に自ら取り組み、潜在課題を新たな地域ビジネスとなるよう推進できる	ウェルビーイング、思考法、地域経済学、PBL入門

(8) 委員からの意見と提言

・データ活用とAIに関する提言

①RESAS活用について

RESASはデータが古くなる傾向があり、活用する機会が限定的。行政が公表している統計データや市販のネットデータも活用する視点を持つべき。

②AIによる情報収集の重視

ビッグデータやRESAS活用において、学生が自ら情報を取りに行くのではなく、AIに情報を持ってこさせるという考え方がタイムパフォーマンスの観点から重要。学生に対し、AIに投げかける「プロンプトの書き方」や「質問の考え方」を教えるべき。

③エクセルスキルの再検討

企業ではエクセルはほとんど使われておらず、関数などを一生懸命覚えるスキルは「死にスキル」になりつつある。科目から飛ばすかどうかは今後の課題となり得る。

④AIのリスクテイク教育

AI活用においては、著作権、肖像権、版權などのリスクテイクに関する教育が必須であり、1授業分程度の時間を使って、違反した場合の罰則を含めて教えるべき。

・アントレプレナーシップに関する提言

① 山口県中小企業家同友会の活用

県内の中小企業代表が集まる山口県中小企業家同友会を活用し、交渉を通じて講師として招き、創業の経緯や会社が抱えるリアルな課題を聞く機会を設けるべき。

② ビジネスプラン発表会

地域のインキュベーション施設（例：KDDI 維新ホール Megriba）が行っているビジネスプラン発表会などを聴講させることで、ビジネスを考える上でのリアリティを学ぶことができる。